

令和8年度		学 校 評 価【 計 画 書 】			加賀市立勅使小学校	
学校教育ビジョン 学校教育目標:自分で考え、動き、幸せな未来を創る勅使っ子の育成 ～明日も行きたい学校を 自分でつくる！みんなでつくる！～						
・算数科を柱とする授業改善による自律した学び手の育成 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ・生徒指導の4つの視点を意識した授業や活動の実施 ・ChokuCGsにもとづく目標設定・振り返り・改善の取組 ・「勅使っ子タイム」「体力アップ1校1プラン」による体力の向上 ・家庭と連携した取組によるよりよい生活習慣の定着						
評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	
①教育課程・学習指導	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	研究主任と連携し、以下のような授業づくりに努める。 ・一人で考え抜く時間と、それを持ち寄って議論する時間が適切に組み合わせられた授業。 ・個別学習で得た知識を、協働学習の場で他者に分かりやすく説明する場を確保された授業。 ・「みんなで考えることで、自分一人の時より理解が進んだ」という実感を味わわせる授業。	児童の学校教育による育成状況等を測ることができる「ScTN」とよばれる教育アンケートを3～6年生を対象に毎年行っている。重点目標に掲げた『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』に関わるアンケート項目の中で『個別の学び』に関わるアンケートで肯定的な回答した児童は昨年度の79.4%、『協働の学び』に関わるアンケートで肯定的な回答した児童は昨年度の86.8%であった。今年度から複式学級が2つ(2,3年、4,5年)となるのを見越し、昨年度三学期から渡り(同時間に一人の教員が2つの学年の学習を指導する)の授業を意識した指導を開始しており、渡りの授業であっても「個別の学び」「協働の学び」の質が落ちないよう授業づくりを進めている。	【成果指標】 児童が「『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』がはかられた学びができています」と実感しているか。	ScTNの「個別の学び」「協働の学び」に関わるアンケート項目(1,2年生は同等の)において、どちらも肯定的な回答をする児童が A 85%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 60%未満	
	自ら学び考え、共に深め合う算数科の授業づくり	次の4点を意識して算数科の単元をデザインする。 ・やってみたいと思う単元の導入 ・学びと学びをつなげる単元構想 ・見通しのある学び ・学びが深まる手立て	昨年度は単元構想シートの作成をし、教科のねらいと委ねる学びを実現できるように研究に取り組んだ。児童の学校教育による育成状況等を測ることができる「ScTN」とよばれる教育アンケートを3～6年生を対象に毎年行っている。重点目標に掲げた「自ら学び考え、共に深め合う算数科の授業づくり」に関わるアンケート項目の中で『探究の学び』に関わるアンケートで肯定的な回答をした児童は昨年度の79.4%であった。	【成果指標】 児童が「『自ら学び考え、共に深め合う算数科の授業づくり』がはかられた学びができています」と実感しているか。	ScTNの「探究の学び」に関わるアンケート項目(1,2年生は同等の項目)において、どちらも肯定的な回答をする児童が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 65%未満	
					【努力指標】 教員が「自ら学び考え、共に深め合う算数科の授業づくり」に努めることができたか。	「『自ら学び考え、共に深め合う算数科の授業づくり』に努めた」と回答した教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満
②生徒指導 ※いじめの未然防止	4つの視点を生かした授業づくりや行事の取り組み	いじめ・不登校の未然防止のために、「生徒指導の4つの視点」に基づいたサイクル表を作成・活用し、授業や行事を含む学校生活のあらゆる場面において、組織的かつ意図的な働きかけを行う。	普段から生徒指導の4つの視点を生かした働きかけを行っているが、検証・改善の周期が短すぎるため、一連の活動が形式的な運用になりつつあり、個々の働きかけを深化させるサイクルとして十分に機能しているとはいいたい。	【成果指標】 「生徒指導の4つの視点」に基づいたサイクル表を活用し、授業や行事において、児童の実態に応じた意図的な働きかけを行うことができた。	「授業や行事を通して、生徒指導の4つの視点を意識して取り組んだ」と回答した教職員が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	
③キャリア教育・進路指導	よりよい自分や集団をイメージし、目標に向かって努力する態度の育成(CCGs)	・児童会で意見を出し合い、CCGs6つを作成し、それを基に、「学級のめあて」、「自分のめあて」を作成し、全校で取り組む。(チェックは強化週間) ・全校集会で各学級の成果や課題を発表したり、個人の取組カードを廊下に掲示したりすることで、「自分で、みんなで、よりよい学校をつくる」意識をもたせる。	全校でCCGsに取り組む意識ができており、CCGsの取り組みを通してよりよい自分や学校・学級を作ることができたと感じている児童が多数いる。一方で、取り組み期間が長く、チェックが形式的になりがちであった。	【成果指標】 ・CCGsの取組を通して、よりよい自分や学級・学校を作ることができたか。	「CCGsの取組を通して、よりよい自分や学級・学校を作ることができた」と回答した児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	
	よい姿勢の定着	「元氣もりもりプロジェクト」取り組みカードの実施 ・児童委員会を活用し、良い姿勢保持のため手本となる姿勢動画の作成 ・家庭と連携し、タブレット端末等の使用時の良い姿勢保持チェック表の活用	授業中の姿勢を保持して取り組んでいる児童が少なく、常時猫背などの姿勢になっている児童が多い、そのため、授業に集中できていない児童がみられる。「元氣もりもりプロジェクト」を通して日常的に正しい姿勢を意識づけ、姿勢の改善に取り組む。	【成果指標】 姿勢よくいられるように意識できたか。	「姿勢よくいられるように意識した」と回答した児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	
⑤安全管理	教職員の「危機対応能力」と児童の「危機回避能力」の定着・向上	・不審者対応・火災・地震の3種の避難訓練の実施 ・各避難訓練における教員のねらい、児童のねらい及び指導のポイント「おかしも」「いかのおすし」の共有(事前指導) ・地震については、休み時間内に実施 ・実施後の振り返りの充実	「お:押さない か:騒げない し:喋らない も:戻らない」と「いか:ついていけない の:自動車に乗らない お:大きな声で叫ぶ す:すぐにげる し:大人に知らせる」については、教員の指導の下、できるようになってきた。教員の管理下外においても、「おかしも」を意識し、自分の命を守るための判断をし避難ができるようにしたい。	【成果指標】 (教職員) 突発的に避難を要する状況においても、適切に判断し、児童を避難させることができたか。	「適切に判断し、児童を避難させようと意識して訓練ができた」という教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	
				【成果指標】 (児童) 身の回りにおける危険な状況を理解し、自分の安全や命を守るための判断と行動ができたか。	自分の身の回りの危険を理解し、安全や命を守るための判断と行動ができたという児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	
⑥特別支援教育	児童理解と特性に応じた支援	・SCとの連携を強化する ・専門相談員を必要に応じて派遣要請 ・児童の実態に応じて個別の指導、少人数指導の実施 ・支援員の適切な配置 ・児童理解の会を月1回実施	気になる児童がいたときに共有する体制が整っている。SCや専門相談員とつながり、継続的に児童に応じた支援が必要である。	【成果指標】 SCとの連携を強化し、児童の支援に生かすことができたか。	「SCとの連携を強化し、児童の支援に生かすことができた」と回答した教職員が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	
⑦組織運営・業務改善	ICTを活用した業務改善	・校内データの完全クラウド化 ・Googleを活用した文書作成・情報共有 ・AIを活用した業務改善	終礼や職員会議の議事録でドキュメントを活用し、紙媒体からデジタル化を推進している。データの管理場所が複数存在し、ICT化を有効活用しきれていない。教材研究・業務改善にAIを活用し始めている。	【成果指標】 ICTやAIの活用により質的・量的な業務改善ができたか。	【成果指標】 ICTやAIの活用により質的・量的な業務改善を図れた教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	
⑧研修	キャリアステージに合わせた研修への主体的な参画	・日常的OJTの取り組み ・希望調査を基にした研修内容の計画と研修会の運営	教員は、研修を通して、確実に資質・能力を高めている。今後は、さらに各自のキャリアを意識した研修の実施や現状に即した実践的研修も充実させたい。	【成果指標】 キャリアステージに合わせ、主体的に研修に取り組めたか。	キャリアステージに合わせ、校内外の研修に主体的に取り組めたという教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	
⑨保護者、地域との連携	家庭や地域との「目指す児童像」の共有。家庭・地域の力を活用した教育活動の充実	・各教科や各領域での学習のねらい達成のための外部人材検討、招へい(家庭、勅使地区、市、JA等)	R7も、各学年とも2回以上、家庭や地域の力を活用した教育活動に取り組んだが、今年度も同様に充実・発展させた。	【成果指標】 家庭や地域の力を活用した教育活動を年2回以上取り組む。	家庭や地域の力を活用した、教育活動を3回以上実施した教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	
⑩教育環境整備	適切な管理、補充、修繕等による教育活動への支援(文書・施設・備品)	・文書の割り振り与管理 ・安全点検の実施と改善箇所への対応 ・備品の適切な保管・整理・補充	適切な文書・施設・備品等の管理や補修等により、教育活動を支援してきた。今後も適切な管理、適時の補充や修繕により教育活動を支援したい。	【成果指標】 文書・施設・備品等の管理や補修等により、スムーズな教育活動ができたか	文書・施設・備品等の管理や補修等により、スムーズな教育活動ができたという教職員(9人)が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 55%未満	